区報ふじきょう　オリンピック・パラリンピック　こども新聞　平成30年1月14日

目が不自由だとは思えませんでした！

たくさんの選手が集まりました

11月26日、日本で1番の柔道の選手を決める「第32回全日本視覚障害者（しかくしょうがいしゃ）柔道大会」が講道館（こうどうかん）で開催（かいさい）されました。

この大会には高知県などの遠いところから来た選手やアメリカ合衆国（がっしゅうこく）や韓国（かんこく）から来た選手、東京や神奈川から来た選手と様々なところから来た選手が出場しています。

中には目が全く見えない全もうの選手や視覚障害のほかにも聴覚（ちょうかく）障害をもった選手も出場しています。

選手たちは講道館の道場を出入りするとき、必ず道場に向かっておじぎをします。（中2／Y・I記者）

（小4／H・K記者撮影）

リオ大会銀メダリスト廣瀬誠（ひろせまこと）選手にもお話をうかがいました

組んでから始まる

道衣のそでに赤や黄色のマーク

道衣（どうい）に注目すると、赤い丸がついている人は目が見えない人、黄色の丸がついている人は耳が聞こえない人、何もマークがない人は完全に目が使えないというわけではなく、少ししか見えないという人です。赤・黄どっちもついている人は、目、耳、どちらも使えない人です。ふつうのじゅう道とルールは同じですが、少しちがうところはあります。選手がコートから出そうになるとき、目が見えない選手はしんぱんが声をかけ、目、耳、どちらも使えない人はしんぱんがかたをたたいてくれます。このように、しょうがい者でもスポーツができるようにたくさんの工夫がされています。（小5／T・O記者）

しんぱんが道衣を持たせる

目の不自由な人のじゅうどうは、しんぱんが選手のうでを持ってれいをして中に入ります。そして、しんぱんが相手の服を持たせてはじまります。体重の軽いひとはすばしこくゆかでころころころがります。体重が重い人はどっすんとところがり、そこまで走りまわりません。会場のゆかはぷにょぷにょでよくゆれます。いくらゆかがやわらかくても、なげられたときはいたそうだなと思いました。目が見えないとは思えませんでした。（小4／S・H記者）

試合時間9秒!!

試合を始める時、ふつうは相手とくまいけど、障害者は相手とくんで始めます。耳がきこえない人にはかたを一回たたきます。「まて」のときには、かたを二回たたきます。

わたしは「スゴ!!」と思った試合があります。それは一本決めて勝ったときののこり時間が3分51秒。つまり試合時間9秒!!

2020年みなさん視覚障害者柔道をみてください。（小4／H・K記者）

目が見えない感じはしない

会場のふん囲気は、試合の時は静かだったけど、勝った時は、大きな声で喜んでいました。試合はすごく迫力（はくりょく）があったし、目が見えなくても、こわさは感じられなかったし、どこに相手がいるのかまよわなかったので、全く目が見えない感じはしませんでした。（小4／R・O記者）

こども記者の質問にていねいに答えてくれた佐々木選手

佐々木選手にインタビュー

佐々木嘉幸（ささきよしゆき）選手は目が悪くなる前には、バスケットボールをしていたそうです。そして、20さいで目が悪くなり、目が悪くてもスポーツをやりたいと思ったそうです。そして、うちまたというわざを練習しているそうで、とくいなわざができるようになりたいと言っていました。（小4／C・K記者）

こども記者のチャレンジ

今回の取材では、一般の報道（ほうどう）の方々といっしょに「かこみ取材」をしました。海外の選手もいて、緊張（きんちょう）しましたが、ぶじ取材をおえました。

廣瀬悠（ひろせはるか）選手と順子（じゅんこ）選手は夫婦でリオ大会に出場！

パラスポーツ体験をつうじて

選手の強い思い

（卓球をやってみて）ふつうに立ってやるのと、すわってやるのではだいぶちがいました。でも、パラリンピックの選手は上手に打ち返していました。選手の方は、障害者ではない方にはできないような事ができると思います。だからこそ「できるようになりたい！上手になりたい！」という強い思いがあるのだと思います。（小4／Y・T記者）

（小4／K・A記者撮影）

みんなができるように

パラリンピックとは、目や足などが不自由な方のためのオリンピックです。実際にやってみると、陸上車いすなどの手足が不自由でもやれるように作られていたことが分かりました。「不自由だから…」じゃなく、みんなができるようになっていることが分かりました。（小4／K・A記者）

（小4／K・S記者撮影）

一日分の体力を使う

私は車いすレーサーの体験をしました。30秒間車輪（しゃりん）を回すだけで一日分の体力を使うくらい大変でした。パラリンピックの車いすレーサーの選手はふつうに走るひとより力があると思いました。（小5／C・Y記者）

うでのきん肉が必要

車いすレーサーを体験した大人の人にきいてみると「いがいとタイヤが重く感じて、あまりタイヤが回らなかった。」と言っていて、選手はどんな重く感じるタイヤを何十キロ、何百キロと走るので、そうとうでの力、きん肉が必要なんだなと思いました。（小4／R・M記者）